

# 通信小海

## 茶の湯のこころ



牧師 水草修治

「純和風」。茶の湯というとなんかことが浮かんでくる。諸外国でも茶道は日本独特の文化として評価されてきた。だが三千家のひとつ武者小路千家の第十四代家元・千宗守はキリスト教と茶の湯との関係が非常に深いものであることを、あちらこちらで講演し、ローマ教皇にまでその講義に出かけたこともある。また、裏千家家元・千宗室も、三浦綾子さんとの対談や内外の講演会で、キリスト教と茶の湯の成立に深い関係があることを指摘している。

利休は、室町末期、戦国時代の国際都市堺

今月の御言葉

「いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見出す者はまれです。」

マタイ福音書七章十四節

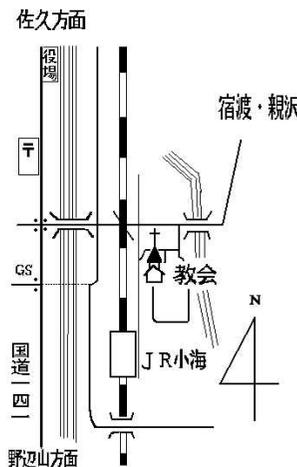
日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

〒振替 〇〇五三〇 〇 六一六八三

## 見晴台の教会へどうぞ



## 集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半  
夕礼拝 午後七時半から八時半

\*海尻・川上・南相木・甲斐大泉で毎月(度) 集会をしています。

個人的な聖書勉強や個人的なことにも乗ります。

の豪商であった。フランシスコ・ザビエルが日本に訪れて以来、多くの宣教師が来日し、堺にはキリスト教の聖堂が建てられた。利休の後妻おりきの娘はキリシタンであり、利休七哲と呼ばれる高弟たちも、高山右近をはじめ多くがキリシタンであった。利休自身も、ミサにおける司祭の所作や聖書の教えから影響を受けて不思議はない。利休は室町の茶に、その学んだところを工夫し取り入れて、茶道を大成した。工夫とはたとえば茶室にある清めの水つくばい、にじり口、あるいは腰に付ける袱紗(ふくさ)、茶杓に秘められた十字架などである。

利休が茶頭(さどう)として仕えた武将はまず織田信長であり、信長が本能寺で斃れて後、秀吉の茶頭となる。若い日の秀吉はなかなか魅力ある人物だが、権力者となってからは醜悪な面をあらわしてしまう。好色な秀吉は部下たちの妻女に手を出し、利休の娘をも

妾にしようとしたが、利休はこれを断わった。後年、秀吉が利休に切腹を命じた真の理由は、この件を深くうらんだからであるとも、彼がキリシタンであったからであるとも、朝鮮出兵に反対したからであるともいわれる。

その前、得意の絶頂にあった太閤秀吉は、利休に黄金の茶室を造らせて己が富貴を世に誇示した。しかし、利休は、茶の心を表現したいと願い、宇治の田原に二畳の小さな茶室を造った。この茶室にはにじり口がある。にじり口は幅も高さも二尺ばかり。太閤殿下であろうと、大名であろうと、庶民であろうと、みな茶室に入るときには、頭を低くし手をつかなければ入ることはできない。「狭い門から入りなさい。滅びにいたる門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見出す者はまれです。」というキリストのことはに着想を得た工夫であると千宗室は言う。

人が頭を下げるときとはどういつときだろう。「ごめんなさいとお詫びするときで

ある。また、ありがとうございますとお礼を言うときである。狭いにじり口は、ありがとう、ごめんなさいの謙虚な心を教えている。きょう生きていることも、一呼吸すらも決して当たり前なことではない。生命をたまたわったお方からの恵みである。また、今日、あ

の人と出会ったことも偶然ではなく、人生のすべてにご配慮くださるお方からの恵みである。そんな恵みを忘れて、すべては自分の力だと傲慢になり、思う通りに行かないと不平不満で生きてきたことを、ごめんなさいとお詫びして、私の罪を赦すためにもキリストが十字架にかかられたことに頭をたれてありがとつございませすという。

正月に流れるニュースは戦争の知らせと恐ろしい殺人事件ばかりである。人の世には争いが絶えることがない。もし私たちが、茶室の狭い入り口に表わされた、「ごめんなさい」と「ありがとう」という心を知り、それを素直に表現できたならば、多くの争いはやむことである。この年、茶室の狭き門「にじり口」に表わされたキリストの心をもつて生活したい。

## お米を感謝します。



昨年未、寒空に空腹で困っている人たちのためにお米を募りましたら、幾人かの方からお米が寄せられました。まことにありがとうございます。世界同時不況のなか、すこしでも助け合つてもに生きてまいりましょう。寄付をお願いします。

送付先  
▽小海キリスト教会にお持ちくださるが、  
南牧村社協へ。

〒384-1302 南牧村大字海ノ口966 1  
5 南牧村社会福祉協議会 気付 山谷農場

\*着払いによる送付はご遠慮ください。荷札に「木曜午後送付希望」とお書きください。

山谷農場事務局(藤田 寛)小海町芦谷ヒルサイ  
ドコーポ 一 二号室 毎週金曜 土曜はあります。

電話090 14366334

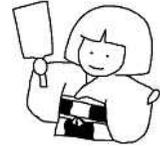
〒777-0427 0602088

メール [nyoro@beige.ocn.ne.jp](mailto:nyoro@beige.ocn.ne.jp)

カンパ 振替 一四 四五三七九六

「アブラハムの生涯」

## 神の訪れ



知恵も力も尽きて

厳しい日差しが、赤茶けたパレスチナの大地をじりじりと焼いていた。この日アブラハムの天幕はマムレの櫛の木のそばにあった。彼はその入り口に腰掛けて、半月ほど前に受けたひさびさの啓示を思い出しながら、独り言をつぶやいた。

『サラに男の子が生まれると、神はたしかにおっしゃった。はじめはまさかと笑ってしまったが、今は信じる。・・・だがサラは信じてくれない。まあ信じられないのが普通か。ああ、だがこまったことだ。』

いくらアブラハムひとり神の約束を信じて、妻も信じて同意してくれなければ、子をもつけることなどできはしない。サラはアブラハムに「あなたは九十九歳のお爺さん、わたしは八十九歳のお婆さん。何を今さら子どもを得ようなんておっしゃるんです

か。もういいんですよ。あなた。」と言って、夫の手をやさしく握り返して、微笑んだ。

サラは傷ついていた。若い日、子を得るためにどれほど努力したことだろうか。けれどもどんなに食べ物を工夫しても、どんなに祈っても、結局、自分は夫アブラハムのため一子も産めなかったことが、サラの心の深い傷となっていた。今度こそという兆候が何度かあり、そのたびに失望して信じることに疲れってしまったということも、サラを臆病にさせていた。それに月のものがすでに去って久しい。今風にいえば、科学的に不可能な話である。

しかし、人間の努力や人間の知恵が尽きたところに神のわざが始まるうとしていた。

### 三人の旅人

老妻の悲しげな微笑みを思い浮かべながらアブラハムがふと地面から目を上げると、三人の男が陽炎の向こうに、こちらを見て立っている。旅人であろうか。アブラハムは神秘を直感した。彼は三人を見つけるなり、駆けて行って、彼らの前にひれ伏した。「ご主人。お気に召すなら、どうか、あなたのしも

べのところを素通りなさないでください。少しばかりの水を持って来させますから、あなたがたの足を洗い、この木の下でお休みください。私は少し食べ物を持ってまいります。それで元気を取り戻してください。」とアブラハムは口上を述べた。

実は、この三人のうち二人は御使いであり、なんとひとり旅人に身をやつした主なる神であった。アブラハムは、しもべに水を持たせて、大櫛の木陰に三人を憩わせ、食事の用意を始めた。少しばかりいいながら、アブラハムは、妻サラには一斗以上もの小麦をつかってたくさんの甘いパン菓子を焼かせ、子牛をほふって料理し、ヨーグルトと牛乳も出し、族長である彼自ら三人の旅人に給仕をした。

「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。」とある。昔、パレスチナで旅をすることはたいへん危険なことであった。野獣・盗賊・飢え・渇き・激しい太陽と危険を数え上げればきりがなし。旅人はよるべなき人だった。神が私たちを訪れるとき、威儀を正した王の姿をしては

来られないし、富豪の姿をしてくるわけでもない。神が私たちの人生を訪れるときは、小さなよるべなき者の姿をしていらっしやる。私たちは、その小さな、最も小さな人をどうもてなすかによって、天の報いを得ることに、あるいは失うことになる。

食事が終わろうとするとき、旅人はアブラハムに尋ねた。「あなたの妻サラはどこにいるのか。」彼は答えた「天幕の中に。」すると三人のうちひとり、神が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻ってくる。そのとき、あなたの妻サラには、男の子ができています。」

サラはその人の背後の天幕の入り口で、このことを聞いていた。彼女は心の中で笑った。『老いぼれてしまったこの私に、何の楽しみがあるっていうの。それに主人も年寄りです。』

すると神はアブラハムにおっしゃった。「サラはなぜ『私はほんとうに子を生めるでしょう。』か。こんなに年をとっているのに。』』  
「といって笑うのか。神に不可能なことがあるうか。わたしは来年の今頃、定めたときに、あなたのところに戻ってくる。そのとき、

サラには男の子ができています。」

神が「それに主人も年寄りです」というサラの内心のことは省いていらっしやるのが興味深い。アブラハムが気を悪くして夫婦喧嘩にならぬように、配慮なさっているのである。

心の中のつぶやきを聞きとがめられて、サラは鳥肌が立った。彼女は打ち消して言った「いいえ。私は笑いませんでした。」しかし、神は言われた。「いや、確かにあなたは笑った。」

サラはからだの震えがしばらく止まらなかつた。そして震えがとまったころ、サラの心のなかには久しく失っていた希望が湧き上がってきていた。『産まず女と言われたきた私も子を生むことができる。私にはできなくても、神がさせてくださる。』と。  
人の力も、人の知恵も尽きたとき、神のわざが始まった。

### 私の今年の目標聖句

愛は寛容であり、愛は親切です。  
また、人をねたみません。  
愛は自慢せず、高慢になりません。

礼儀に反することをせず、  
自分の利益を求めず、

怒らず、人のした悪を思わず、  
不正を喜ばずに真理を喜びます。

すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを待し、すべてを耐え忍びます。

愛は決して絶えることがありません。

.....  
こういうわけで、いつまでも残るものは信仰希望と愛です。その中で一番くわているのに愛です。愛を追い求めなさい。

### 第一コリント十三章抜粋

新婚の頃このことは紙に書いて壁に貼りつけ、妻と毎日声を合わせて読んだものでした。原点に立ち帰って、今年はこのことを個人生活の目標にしました。

